



ほかに、大学生のお姉さんから高校生たちに「結婚相手はなに人がいいですか」というドッキリとする質問があった。照れながら「好きだったら、なに人でもいいです」と答えた生徒がほとんどだった。大学生たちは、中華学院の生徒たちが民族や国籍にあまりこだわりのもっていないことに意外性を感じ

### 多文化共生はあたり前

すっかり和やかな雰囲気になったころ、すでに二時間が経過していた。最後に感想を述べ合うと、大学生の一人が、「こうして直接みんなと話を

している外国人の子どもたちを通して多文化共生を考える授業を受けていると、学年末に課されたグループワークのテーマに中華学院を選んだそう。自分たちと年齢の近い横浜中華学院の高校生と議論をしたいので、同席してください」というのだ。

大学側からは学生が五人、そして付き添いの先生が一人いらしていた。横浜中華学院側も、学生たちの交流を貴重な教育、啓発の機会と考えたのか、授業時間を割き大学生の依頼に対応していた。中華学院側からは高校一年生から三年生の生徒が十五人ほど参加した。二〇人ほどで輪をつくり、まずは自己紹介から始めた。日本生まれの中国系四世で中国語よりも日本語の方が流暢だという生徒もいれば、両親が国際結婚している生徒、来日してまだ一、二年なので日本語がうまく話せない生徒、両親と



運動場での体育の風景。欧米系の生徒もいる。奥には孫文の銅像もく提供・庄司博史

### 将来のイメージ

両親から生まれた生徒たちからは、「親が中華学院の卒業生だから」とか、「母語である中国語を身につけるため」という理由があった。一方、来日して間もない生徒たちは「日本の学校に入りたくないけど、日本語では勉強についていけないという不安があったから」という。両親とも日本人の生徒は、「こじんまりしていて家族的なのが決め手だった」という。

「自分が親になって子どもができたとき、どんな学校に通わせたいか」という質問もあった。高校生たちにとっては、少々気の早い話に思えたが、みんな一生懸命将来をイメージしながら答えていた。「子どもと相談して決める」という生徒もいれば、「できれば中華学院に通わせたい」という子もいた。「中華学院の今後の教育方針を見て決める」という冷静な発言をする生徒もいた。通わせたい理由として、中華学院の先生と生徒たちの関係が親密で家庭的だからという。一方、躊躇を示した学生は、近年生徒が急増し、かつてのアットホームな雰囲気にかげりが見えてくることに難色を示した。



中華街のパレードで民族舞踊を披露する生徒たち

とじていた。「自分が親になって子どもができたとき、どんな学校に通わせたいか」という質問もあった。高校生たちにとっては、少々気の早い話に思えたが、みんな一生懸命将来をイメージしながら答えていた。「子どもと相談して決める」という生徒もいれば、「できれば中華学院に通わせたい」という子もいた。「中華学院の今後の教育方針を見て決める」という冷静な発言をする生徒もいた。通わせたい理由として、中華学院の先生と生徒たちの関係が親密で家庭的だからという。一方、躊躇を示した学生は、近年生徒が急増し、かつてのアットホームな雰囲気にかげりが見えてくることに難色を示した。



中華学校への入学希望者の増加 (産経新聞2005年1月11日版)

「自分が親になって子どもができたとき、どんな学校に通わせたいか」という質問もあった。高校生たちにとっては、少々気の早い話に思えたが、みんな一生懸命将来をイメージしながら答えていた。「子どもと相談して決める」という生徒もいれば、「できれば中華学院に通わせたい」という子もいた。「中華学院の今後の教育方針を見て決める」という冷静な発言をする生徒もいた。通わせたい理由として、中華学院の先生と生徒たちの関係が親密で家庭的だからという。一方、躊躇を示した学生は、近年生徒が急増し、かつてのアットホームな雰囲気にかげりが見えてくることに難色を示した。

しては、多文化共生はあたり前のことだ。日本の大学生と横浜中華学院の子どもたちの交流を通して、相互理解における対話の大切さを考える

「今度、僕たちの獅子舞、ぜひ見に来てください」。別れ際に、大学生の先輩を誘った無邪気な高校生が、なんだか少し大人っぽく見えた。

多文化を  
ささえる  
人びと

# 対話から理解へ

## 大学生たちとの横浜中華学院訪問記

日本に暮らす中国系の子どものための教育機関、中華学校。ここで学ぶ生徒たちにとって、多文化共生はあたり前のことだ。日本の大学生と横浜中華学院の子どもたちの交流を通して、相互理解における対話の大切さを考える

### 華僑・華人子弟のための教育機関

日本には、中華学校や華僑学校とよばれる中国系の子どものための教育機関がある。東京、横浜、大阪、神戸などに合計五校ある。もっとも古いものでは一〇年以上の歴史を有し、孫文が革命活動のため来日していた際に創設にかかわったという学校もある。

中華学校は、大陸系（中華人民

共和国系）と台湾系（中華民国系）の違いから、生徒が学ぶ歴史や文字など、いくらか差異はあるものの、いずれも日本に暮らす華僑・華人の子どもたちへの母語教育、伝統文化にそった道徳教育、民族の自覚、日本と母国の友好親善事業に積極的に貢献できる人材の育成を教育目標に掲げている。

教授は一部の科目をのぞき基本的に中国語でおこなわれている。中華学校独自でカリキュラム編成をしているため、日本の学校教育法で決められている「学校（一学校）」とは認められておらず、各種学校として扱われている。保育部から中学部、なかには高等部まである学校もある。

わたしにメールをくれたリーダー格の大学生がまず高校生たち「なぜ中華学院に通っているのか」と質問をした。四世で日本生まれの生徒や国際結婚をしている



学内に貼られた、バイリンガルで書かれた論語の標示。台湾系のため漢字は繁体字で学んでいる

陳天璽

民博 先端人類科学研究部

華僑華人研究をはじめ、移民・マイノリティ研究、国籍パスポート研究に取り組んでいる。人びとの移動にともなう文化の移動と変容。そして、個人と国家の関係に興味をもっている。